

教科(科目)	商業(情報処理)	実施学年 (履修規定)	2学年 必修
単位数	3単位	教科書	
		副教材	情報処理検定模擬試験問題集
科目の目標	・コンピュータの基本的な仕組みやソフトウェアなど、情報処理機器の活用に関する知識と技術を習得させ、ビジネス情報の意義や役割について理解させる。 ・表計算やデータベースなどの既成のソフトウェアや情報通信ネットワーク等を用いて、情報を収集、整理、処理し、分析、伝達するなど活用する能力と態度を育成する。		
目標達成に向けての取組	・ビジネスの諸活動における情報を情報処理機器等を使って適切に収集、処理、分析するための、情報活用能力を育成する。 ・表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアなどの操作方法や理論だけでなく、具体的なデータを用いて実践的な実習を行い、技術の習得に努める。		

進度

月	単元	学習内容・項目・活動等	評価方法・項目等	評価の規準等
4	1. ハードウェアに関する知識 (1) ハードウェアの構成	・ビジネスの諸活動における情報活用の重要性及び情報の意義や役割について理解させる。 ・コンピュータの特性を理解させるとともに、様々な情報処理システムの形態を具体的に学習させ、情報処理の過程とコンピュータの役割を理解させる。 ・コンピュータの基本的な機能や構成、主な周辺機器の特徴をオフィスにおける利用形態と関連付けて理解させる。	・問題集 ・ノート ・行動観察 ・自己評価表	・授業に取り組む学習態度や学習の内容に対する理解度はどうだったか。 (関心・意欲・態度) (知識・理解) ・要領よく内容をまとめ、適切に表現できたか。 (関心・意欲・態度) (技能・表現)
5	2. ソフトウェアに関する知識 (1) ソフトウェアの構成	・パーソナルコンピュータにおけるオペレーティングシステムとアプリケーションソフトウェアの役割など、ソフトウェアの概要について理解させる。 ・ディレクトリの意味とその構成がどのようなになっているか理解させる。	・問題集 ・行動観察 ・プリント	・授業に取り組む学習態度や学習の内容に対する理解度はどうだったか。 (関心・意欲・態度) (知識・理解)
中間考査				
6	3. 表計算ソフトウェア活用の基礎 (1) 関数の利用 (2) グラフの作成	・表計算ソフトウェアの統計、検索、論理、日付などの基本的関数を用いた売買に関する計算や集計を行うことのできる関数について理解をさせる。 ・情報を目的に応じた形に加工し、有用なビジネス情報を導き出すための技法を習得させる。 ・表のデータを視覚的に表現し活用するために、目的に応じた適切なグラフを選択して作成するために必要な知識や技法を習得させる。	・問題集 ・実習 ・課題提出 ・行動観察	・課題の提出はきちんとできたか。 (思考・判断) (技能・表現) ・要領よく内容をまとめ、適切に表現できたか。 (関心・意欲・態度) (技能・表現)
7	(3) データの検索	・表計算ソフトウェアの機能を用いてデータを整列、検索、抽出したり、データベース関数を用いた集計処理を行うために必要な知識や技法を習得させる。 ・データを目的に応じた利用しやすい形で取り出し、活用するために必要な知識や技法を習得させる。	・問題集 ・課題提出 ・実習 ・プリント ・行動観察	・学習態度や理解度はどうだったか。 (関心・意欲・態度) (知識・理解)
期末考査				
8	夏期休暇			

9	(4) 報告書の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・データを集計、分析した結果を基に、グラフやコメントを加えるなどの編集作業を行い実務的な報告書を作成するために必要な知識や技法を習得させる。 ・売買計算を基に編集を行い売買に関する帳票類を作成させるなど、表計算ソフトウェアをビジネス書類の作成に活用するための技法を習得させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題集 ・プリント ・自己評価表 ・課題提出 ・行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に取り組む学習態度や学習の内容に対する理解度はどうだったか。 (関心・意欲・態度) (知識・理解)
10	4. ビジネス計算と表の作成 (1) 金融に関する計算	<ul style="list-style-type: none"> ・複利法による利息計算や賦金、積立金などの計算について理解させる。 ・表計算ソフトウェアを用いて計算を行う方法を習得させる。 ・予定積立金総額や借入金返済計画などの表の作成や表を用いたシミュレーションを行わせるなど、表計算ソフトウェアを活用するために必要な知識や技法を習得させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題集 ・プリント ・実習 ・課題提出 ・自己評価表 ・行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に取り組む学習態度や学習の内容に対する理解度はどうだったか。 (関心・意欲・態度) (知識・理解) ・要領よく内容をまとめることができたか。 (関心・意欲・態度) (技能・表現)
中間考査				
11	(2) 証券投資に関する計算	<ul style="list-style-type: none"> ・債権の売買や利回りの計算、株式の売買や利回りの計算及び株式の評価に関する計算について理解させる。 ・表計算ソフトウェアを用いて計算を行うために必要な知識や方法を習得させる。 ・表の作成や表を用いた株式売買に伴うシミュレーションを行わせるなど、表計算ソフトウェアを活用するために必要な知識や技法を習得させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題集 ・プリント ・実習 ・課題提出 ・自己評価表 ・行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に取り組む学習態度や学習の内容に対する理解度はどうだったか。 (関心・意欲・態度) (知識・理解) ・要領よく内容をまとめることができたか。 (関心・意欲・態度) (技能・表現)
12	5. データベースソフトウェア活用の基礎 (1) ビジネス情報とデータベース	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス情報をデータベース化して管理し活用することの意義について具体例を用いて理解させる。 ・データベース化することにより情報の管理・運営等が効率的に行えることを理解させる。 ・関係データベースをモデルにデータベースの機能や役割について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題集 ・プリント ・課題提出 ・行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する学習態度や理解度はどうだったか。 (関心・意欲・態度) (知識・理解) ・課題の提出はできたか。 (思考・判断) (技能・表現)
期末考査				

1	(2) データベースソフトウェアの利用	<ul style="list-style-type: none"> ・データベースソフトウェアを用いた簡易なデータベースの作成や既存のデータベースの追加・更新など、データベースソフトウェアの概要について理解させる。 ・整列・検索・抽出・集計・結合などの基本操作により、目的に応じた情報の集計や報告書を作成するための基礎的な技法を習得させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題集 ・プリント ・課題提出 ・自己評価表 ・行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に取り組む学習態度や学習の内容に対する理解度はどうだったか。 (関心・意欲・態度) (知識・理解) ・課題の提出はできたか。 (技能・表現)
2	6. ビジネスと情報通信ネットワーク (1) 情報通信ネットワークの概要と利用	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信ネットワークの役割及びその構成や利用形態の概要について理解させる。 ・インターネットについては、仕組みの基礎と様々な利用方法とその効果について理解させる。 ・情報通信ネットワークを利用した情報の検索・収集の方法について理解させる。 ・収集した情報を、文書作成や表計算ソフトウェアを用いて編集し報告書の作成の仕方を習得させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント ・問題集 ・課題提出 ・実習 ・行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に取り組む学習態度や学習の内容に対する理解度はどうだったか。 (関心・意欲・態度) (知識・理解) ・要領よく内容をまとめることができたか。 (思考・判断)

3	<p>7. 情報モラルとセキュリティ管理</p> <p>(1) 情報モラル</p> <p>(2) セキュリティ管理</p>	<p>・情報を取り扱う際に留意すべき、著作権やプライバシーの保護及びモラル・ハザード(倫理の欠如)について理解させる。</p> <p>・情報が社会に与える影響力の大きさを理解させた上で、情報に対する責任の重さを考えさせる。</p> <p>・コンピュータの利用者の拡大に伴い増加している、データの破壊や変更、漏洩などの被害を取り上げて、データを保護するためのセキュリティ管理の必要性を理解させる。</p> <p>・コンピュータの利用者が行うべきセキュリティ管理の方法について理解させる。</p>	<p>・問題集</p> <p>・プリント</p> <p>・課題提出</p> <p>・実習</p> <p>・行動観察</p> <p>・自己評価表</p>	<p>・授業に取り組む学習態度や学習の内容に対する理解度はどうだったか。</p> <p>(関心・意欲・態度)</p> <p>(知識・理解)</p> <p>・課題の提出はできたか。</p> <p>(技能・表現)</p> <p>・要領よく内容をまとめ、適切に表現できたか。</p> <p>(思考・判断)</p>
学年末考査				

評価の観点及び趣旨

「情報処理」の総合評価における各観点の割合

関心・意欲・態度	10 %程度	知識・理解	15 %程度
思考・判断	10 %程度	技能・表現	15 %程度
定期考査	50 %程度		